

2025年3月17日

「ekinico」 BEPPU STUDIO 04 開設のお知らせ！

JR九州では、主に無人駅など、にぎわいを失いつつある駅舎等に生まれた遊休スペースを地域の皆さまと一緒に工夫して活用し、持続可能な駅のにぎわいづくりを目指す新たな繋がり「ekinico」をスタートしました。このたび、NPO 法人 BEPPU PROJECT との協働によるレンタルスタジオ「BEPPU STUDIO 04」の開設が決定しましたので、お知らせいたします。

1. BEPPU STUDIO 04(ベップスタジオゼロフォー)について

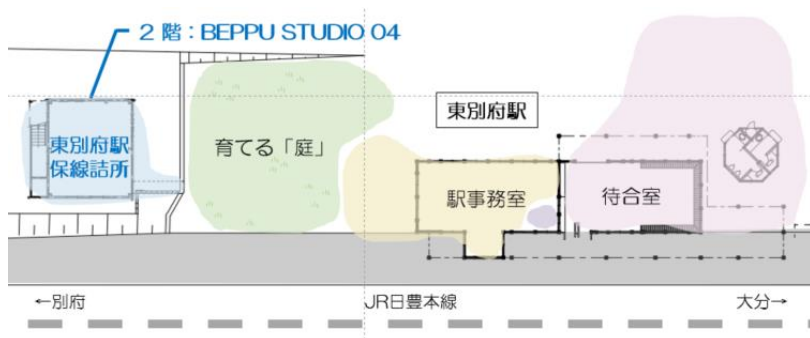
「BEPPU STUDIO 04」は、NPO 法人 BEPPU PROJECT と JR 九州が協働し、東別府駅構内にある保線詰所の2階遊休スペースに開設したレンタルスタジオです。スタジオ内には食のアーティスト・クリエイターが活動できるキッチン設備を設け、駅舎とアトリエの間にある「庭」も作品制作や発表の場となります。

スタジオ開設にあたっては、建築家・横浜国立大学准教授でフジワラテッパイアーキテクツラボを主宰する藤原徹平さまが建物改修の設計監修を行いました。

「BEPPU STUDIO 04」を通して、NPO 法人 BEPPU PROJECT とともに、アーティスト・クリエイターさまや地域の皆さま、別府に訪れる皆さまとの東別府駅での新たな出会いを大切に、地域を盛り上げてまいります。

2. 今後の予定

2025年3月22日(土) 13:00~17:00にスタジオのお披露目会を行う予定です。



東別府駅配置図



BEPPU STUDIO 04

BEPPU STUDIO:

別府市は、2022年12月に『令和4年度 芸術文化実施計画 文化観光の推進とアーティスト・クリエイター移住・定住計画』を策定し、アーティスト・クリエイターの移住定住を促進しています。この流れを受け、アーティスト・クリエイターが活動できる場として NPO 法人 BEPPU PROJECT が開設したのが『BEPPU STUDIO』です。昨年3月に空き物件を改修したレンタルスタジオ『BEPPU STUDIO 01』を開設されています。

このたび、『BEPPU STUDIO 02,03,04』を開設され、『BEPPU STUDIO 04』の開設については ekinico プロジェクトとして BEPPU PROJECT と JR 九州が協働して取り組みました。

プレスリリース: BEPPU STUDIO 02,03,04 開設にともなうお披露目会について (BEPPU PROJECT)

<https://www.bepuproject.com/news/5205>

【BEPPU PROJECT】

BEPPU PROJECT は、世界有数の温泉地として知られる大分県別府市を活動拠点とするアートNPO。2005年4月に発足して以来、現代藝術の紹介や普及、フェスティバルの開催や地域性を活かした企画の立案、人材育成、地域情報の発信や商品開発、ハード整備など、さまざまな事業を通じてアートが持つ可能性の普遍化を目指し、アートを活用した魅力ある地域づくりに取り組んでいる。
(九州観光まちづくり AWARD2023 大賞受賞)



撮影:山中 慎太郎 (Qsyum!)©混浴温泉世界実行委員会



【BEEPU STUDIO 04 設計監修】

藤原徹平(建築家/フジワラテッパイアーキテクトラボ主宰/横浜国立大学 准教授)

建築家としてだけではなく、ランドスケープ、アート、パフォーミングアーツなど領域を越境した活動を展開



藤原徹平 撮影:FUJIWALABO

1975年横浜生まれ

主な建築作品:<クルックフィールズ>、<小浜ヴィレッジ>、<京都市立芸術大学>、<チドリテラス>など。

その他活動:<ドリフターズサマースクール(2009~2012)>、<2011 港のスペクタクル>、<横浜トリエンナーレ 2017 会場デザイン>、<リボンアートフェスティバル 2016/ 2017/2019 会場デザイン>、<RAU 都市と芸術の応答体>など。

主な受賞:横浜文化賞 文化・芸術奨励賞 JIA 新人賞ほか



KURKKU FIELDS 撮影:高野ユリカ



チドリテラス 撮影:西川公朗



泉大津市立図書館シープラ 撮影:新建築写真部

【設計コンセプト】食と庭のアトリエ

別府のまちと環境を耕していく拠点をつくりました。歴史ある東別府駅の駅舎に隣り合うこのスタジオは、線路に面した長いキッチンを持ちます。アトリエの外観デザインについては、形はほとんど変えず、周囲には存在しない色で塗りこめることで、場所に馴染みながらもささやかな違和感を感じさせるデザインとしています。内部空間については、キッチン工房として空間を整えつつ、銭湯やまちなみのカラーで彩った空間としています。このアトリエが駅という公共的な場とどのように作用し合うのか、駅舎とアトリエとの間にある土地を、これから1年かけてアーティストやクリエイターとともに実験しながら「庭」としてつくっていきたいと思います。